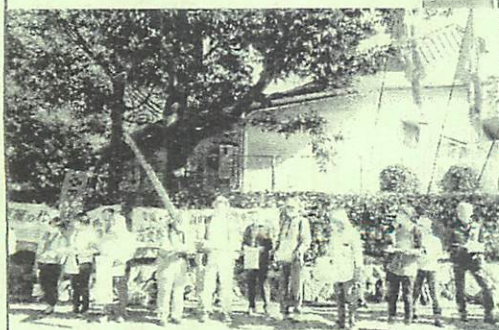


講演

「虎に翼」と日本国憲法」



府本部の署名・宣伝行動

「生かそう憲法 守ろう9条 11.3 憲法集会 in 京都」

日本国憲法が公布されて78年目の3日、円山音楽堂で開かれ、市民ら1800人が参加しました。
NHK朝の連続テレビ小説「虎に翼」で法律考証を担当された村上一博・明治大学教授が講演。
集会後、市役所までデモ行進し“9条改憲許すな”と訴えました。



(605号付録)

京都版 第462号

2024年11月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

京都府本部

〒604-8832 京都市中京区

壬生下溝町51-41

TEL: 075-312-8787

FAX: 075-325-3863

E-mail

Info@kokubai-kyoto.com

ホームページ

<https://kokubai-kyoto.com>

解散総選挙について

10月27日に投票票がおこなわれた総選挙は、同盟員の皆様も政治を変えようとご奮闘されたのではないかと思います。選挙の結果にはいろいろな思いはあると思いますが、本

当に大変ご苦労さまでした。

自民党・公明党は、「与党過半数割れ」に追い込まれるという歴史的大敗を喫しました。

自民党政治への厳しい国民の審判は、私たちの運動がその一助となったものと思います。

大局的に見れば、国民が自民党政治に代わる新しい政治を模索し探求する、新しい政治プロセスを起こしてきたものと、結果を心から歓迎するものです。

自民党の政治資金パーティーによる裏金づくりを暴露し、さらに選挙の最中に、裏金非公認議員にたいする政党助成金

からの2000万円の支給をスクープした「しんぶん赤旗」と日本共産党の論戦が政治の激動をつくりだし、自民・公明の政権与党を過半数割れに追い込む決定的な役割を果たしました。

沖縄では、赤嶺政賢さんが9回目の当選を果たし、宝の議席を守りきることができました。市民との共同、沖縄の力とオール沖縄の団結した力だと思えます。

残念ながら比例で共産党は、9から7議席へと後退し、京都の小選挙区も得票が後退しましたが、近畿の比例では穀田恵二さんの議席を引き継ぐ堀川さんの当選は今後の私たちの運動の大きな力となります。

今回の選挙の結果、国民の意思は改憲勢力全部あわせても287議席で3分の2の310を割りました。改憲を直ちに

発議できる状況を阻止したことは、「憲法を変えるな」「憲法守れ」と言い続けた結果ではないでしょうか。

しかし、そんなに単純にあきらめる改憲勢力ではなく、いろいろな形で巻き返しが起きるものと思います。

今回の選挙結果は、日本の政治状況に大きな変化をもたらすに違いありません。これだけの与野党伯仲状態をつくりだしたもつとで、みんなの要求を実現する可能性はさらに広がったといえます。

私たちの永年の要求である治安維持法犠牲者への国家による謝罪と補償の実現をはじめ、選択的夫婦別姓、企業・団体献金の禁止についても多くの党が掲げています。軍拡増税には反対だ、そういう勢力も多数になっています。私たちの要求や、さまざまな要求を一つに

集めて、国会で政府に突き付け、実現していく、まさにたたかいたの時代が幕を開けたのだと思います。

これまでの「自民一強」と言われたような強権的に数の力でどんどん押し通すこともできなくなった今回の結果、彼らの手足を縛ったことは間違いありません。

声を上げれば政治は動きまます。そういう状況をつくりだしたのは、まさに私たちが投じた1票だということをお互いに確信をもって進んでいこうではありませんか。

これからがまさにたたかいたの本番です。みんなで声をあげ、政治を前に進めてきましょう。自民党政治の退場を求めた民意にこえて動くのか、それとも石破政権の延命に手を貸すような態度を取るのか、すべての政党にそのことが問われています。

と思います。

政治を変える展望は一体どこにあるのか。今回の総選挙では、市民と野党の共闘で一定の成果をあげた地域もあります。共闘の新たな発展の流れをつくるために全力をあげていきたい。それを進めていく大きな力は私たちの声、世論と運動です。さらなるたたかいを広げていこうではありませんか。

京都学連事件補遺

—淡徳三郎の疑似「転向論序

説」(「三つの敗戦」1948

年・時事通信社刊より)—

はじめに

白いプラタナスの並木道に面したバリのカフェテラスで同盟通信の特派員に戦雲怪しきヨーロッパの情勢やフランス人民戦線の興廃などをビールの泡が口ひびげに付くのもい

とわずに解説する淡徳三郎がいた。

1941(昭和16)年4月18日に改造社から出版された「戦争と自由」の著者である淡徳は、同盟通信パリ支局の現地採用の疑似通信員だった。

また、淡徳は、学連事件の歴史的な意義を「改造」1926年10月号に記載した経緯もあり、1935年11月から1938年11月頃までの「西歐における人民戦線運動の興亡」などを改造社に通信していた。しかし、「戦争と自由」は発禁となり、店頭で官憲によって即回収されてしまった。

1937年7月7日の盧溝橋事件を切っ掛けに日中戦争が開始されるや、国民精神総動員が発令された。11月8日の京都の雑誌「世界文化」や隔週刊紙「土曜日」の関係者が検挙され、12月には第一次人民戦

線検挙があり、翌1938年2月には第二次人民戦線の検挙が起こったところだ。

1、淡徳の華麗なる武勲詩

1901(明治34)年8月

15日生まれ、1977(昭和

62)年5月20日に死去した。

大阪市西区北堀江生まれ。第三

高等学校から京都帝大文学部

哲学科卒。在学中に「伍民会」

を岩田義道らと結成し、その後

1925年に「社会科学研究

会」に改組した。

1926年1月の第二次京

都学連事件で指導者として検

挙され、第一審で禁固10カ月

の判決を受けた。上京して、1

927年12月、日本共産党に

入党。浅野船渠細胞に所属した。

同年3・15事件弾圧をまぬが

れつつも、京浜地方の党再建に

あたる中、5月3日に中間検挙

された。そこで約1年半拘束さ

れたのち保釈出獄した。その際、

淡徳はマルクス主義を否定こ

そしなかつたものの、老いた母

や小さい子がいることを口実

として実践活動から身を引き、

もっぱら学術的な研究に没頭

すると声明書を出したので釈

放された訳だ。

その後5年間はますます激

しくなる弾圧の嵐におじけづ

いた。以後、著述業に従事しつ

つも、官憲の仕分けではいわゆ

る「準転向」の部類になった。

党にいわせれば、敗北主義に

転落した、「革命家」として恥

ずべきものだった。

しかも、獄中の解党派幹部の

浅野晃が、保釈中の淡徳に皇室

中心の共産党設立を呼び掛け

てきたが、もともと浅野の狂信

性をかんじていたが変わり身

の早さに共感できず、聞き流し

ただけだった。つまり、「準転

向」どまりで、毎日みそぎをす

るような「完全転向」の段階に

はすすまなかつた。

そのうち、獄中の同志と呼応

し、「解党派」反対の運動が台

頭してから、市川・徳田・国領・

志賀らの公判闘争委員会圏に

結集し、解党派を除外した3・

15及び4・16の統一公判に

参加し、1931年に懲役4年

の判決がくだった。すぐに控訴

した。

東京控訴院公判闘争弁護団

は、上告を維持するよう求めた

が、「徒に未決拘留の苦しみを

続けて」まで上告の維持を進め

ることはしないといわれた。

2、要視察人生活の中で193

1年の公判から1934年の

控訴審判決が出るまで、要視察

人として4回逮捕され、4回証

拠不十分で釈放された。

第一回目は1931年8月

で、市川・徳田その他の獄中委

員の公判参考資料として裁判

長の

許可を得て、弁護士が速記・翻

訳した資料を謄写版で印刷し

製本したことで秘密出版の嫌

疑をうけた。29日の勾留で

釈放された。(『日本共産党公判

速記録』1931年)

第二回目は1932年12

月で、岩田義道の労農葬事件関

連で検挙された。葬儀の日早朝

にどてらを着たまま岩田の家

にゆき、張り込んでいた目黒署

に連行された。岩田とは学生時

代からの友人なので岩田夫人

を見舞ったに過ぎないと抗弁

して拘留明けの20日で釈放

された。

△次号に続く▽



支部便り

宇治洛南支部

山崎 恭一

総会を開きました

11月2日に第13回宇治洛南支部の総会を開きました。

コロナ禍で文書決済等の総会が続き久しぶりの実参加の総会でしたが、当日は大雨警報がでるといいう大変な天気でした。おかげで参加者は役員と来賓だけでしたが、活発な議論が交わされました。

第一部は、映画「わが青春つぎるとも」伊藤千代子の生涯—を上映しました。ほとんどの人が1度は見ていたのですが、あらためて見ると1度目には気づかなかつた場面があるなど、あらためて深く鑑賞するこ

ともできました。

第2部の総会は、府本部の原田会長の挨拶で始まりました。

討論では、先日の総選挙の結果をどう見るか、立民やれいわなどをどう評価するか、自民・公明の過半数割れという前進面と「野党」の動向によっては危険な面もあることなどについて意見が交わされました。

国賠同盟の活動について、なにをする組織なのか分かり易く訴えること、来年の治安維持法100年をめざして会員数、署名数を大きく進めるためにも、学習テキスト「治安維持法とはなにか」を学習・普及しようとして確認しました。

役員選出では、高齢などで退任する理事に代わって2名の新理事を選出、14人の新役員が発足しました。

京丹後支部

副支部長 森 勝

9月21日開催した第16

回支部総会の具体化と実践を目指して11月9日に第1回支部委員会を開きました(出席率71.4% 出席者は10名)

冒頭で総選挙の活動と感想を出し合い論議し、いつもより時間を延長し全員からの発言があり、来年の参議院選挙の課題について明らかにすることができました。

又、支部委員会に向けて署名や同盟費集めを訴えましたので、同盟費は約70%以上結集され、署名も200筆近くが報告され、まだ遅れています。前進をはじめていきます。

会議の中で、いま60筆だが150筆めざすとか、税務申告活動の中で600筆以上はやるなどの発言など積極的な発言もありました。

2000筆目標の年内100

00筆へ向けて前進するために、団体署名の訴えとともに個人署名の協力が得られるよう京丹後市の労組・民主団体代表約30人に対し11月19日に、支部委員を中心に一齐行動を計画しました。

課題をやりきる上で重要だとして、支部委員全員が次回支部委員会(12月臨時開催)までに「学習のテキスト」を読み、学習することを確認しました。さらに、年内の課題をやり切り、2025年の「新年のつどい」を開催することを確認しました。

訃報

京都府本部理事

有元美津子さんがお亡くなりになりました。

ご冥福をお祈り致します